

9. 「限界突破キャンプ」の今後の方向性

国立赤城青少年交流の家所長 松村 純子

平成24年度から、赤城山山麓の山々を制覇することを中心に6年間実施してまいりました「赤城やまなみキャンプ」を平成30年度新たに上毛三山（じょうもうさんざん）と言われる群馬県内にある「赤城山」・「榛名山」・「妙義山」の三つの山のうち、「赤城山」と「榛名山」の二山を制覇する内容に変更するとともに事業名も「限界突破キャンプ」に変更しました。

豊かな人間性を育む長期自然体験事業を推進するためには、職員だけで企画するのではなく、県内の様々な機関と連携し、実施することが必要であり、リニューアルするにあたって、今まで設置していなかった「企画委員会」を設置し、企画の段階から委員の先生方にご意見を頂きました。

本年度は、参加者の事前研修（1泊2日）を行うだけでなく、ボランティアの事前研修（1泊2日）も実施しました。

本事業の「ねらい」に沿ったプログラムを運営するには、職員だけでなく、ボランティアの学生も実地踏査を行うことが重要だと考えるからです。

今後についてですが、リニューアルしたプログラムについて「PDCA」を回し、よりよいプログラムに改善していくことが、次年度の企画立案に必要です。

そして3年目には、残る上毛三山の一つ「妙義山」を追加し、「赤城山」と「妙義山」の二山を制覇することにより、3年間で三山制覇を目指したいと考えております。

また、報告書作成にあたり青少年教育関係者の方々に活用される報告書を目指し、実際に使用した「振り返りシート」等を資料に掲載いたしました。

本報告書が、長期自然体験事業を実施する青少年教育施設の一助になることを願っています。

最後に、本事業実施にご協力いただきました委員の皆様には厚くお礼申し上げます。